

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-144	高等学校	外国語	コミュニケーション英語 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	コ I ・ 344	Revised COMET English Communication I		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

本教科書の編修にあたっては、学習者が**英語に対する興味**をもち、**英語を読む・聞く・書く・話すことの楽しみ**を知ると同時に、**基本的な英語の運用能力**や、**英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度**を伸ばせる内容・構成となるよう留意した。

## 2. 編修の基本方針

編修の基本方針として、学習者が**英語に対する興味**をもち、**英語を読む・聞く・書く・話すことの楽しみ**を知ると同時に、**基本的な英語の運用能力**や、**英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度**を伸ばせる内容・構成となるよう留意した。

1. 題材の選択においては、学習者が身近に感じ、かつ学習者の**知的好奇心**を満足させ得る内容のものを中心に選んだ。
2. また、題材内容を一方的に与えるだけでなく、学習者自身の意見を引き出したり、クラスメートに意見を聞いたりする活動を設けるなど、**4技能を有機的に関連**させるようにした。

上述した内容・構成によって、学習者が**多様な知識と教養**を身につけ、主体的に**社会の形成に参画**し、**自他国の伝統・文化を尊重**しつつ**国際社会の平和と発展**に寄与する態度を養うことが達成できる教科書となるように編修した。

## 3. 対照表

(例)

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Introduction ①Classroom English ②Japanglish	①教室で用いる基礎的な英語表現を身につける。(第1号) 相互の意見や関係性を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(第3号) ②和製英語を認識し、適切な英語で表現しようとする姿勢を身につける。(第1号)	①8～9 頁  ②10～11 頁

<p>本文</p> <p>①Lesson 2</p> <p>②Lesson 4</p> <p>③Lesson 5</p> <p>④Lesson 6</p> <p>⑤Lesson 7</p> <p>⑥Lesson 8</p> <p>⑦Lesson 9</p> <p>⑧Lesson 10</p> <p>⑨Reading 2</p>	<p>①世界的に評価される和食の特徴を認識し、自国の食文化に対する理解を深める。(第5号)</p> <p>②日本の学校と外国の学校の相違点を学び、国際的視野を養う。(第5号)</p> <p>③ピースの育ての親・高市敦広氏の献身的な飼育を通じて、職業への意識づけを行い、勤労を重んずる態度を養う。(第2号)</p> <p>日本初の人工哺育で育てられたシロクマ・ピースの成長を通じて、生命の大切さを学ぶ。(第4号)</p> <p>④高校生が廃棄された車いすを修理し、アジアの国々に贈る「空飛ぶ車いす」の活動を通じて、ボランティア精神や社会貢献の意識を養う。(第3号)</p> <p>⑤鳥や魚が群れで行動するルールやそれを応用した技術について学び、幅広い分野での探究心を培う。(第1号)</p> <p>⑥コンビニエンスストアにおける商品配列や陳列棚の工夫とその狙いを学び、知的好奇心を培う。(第1号)</p> <p>⑦マララ・ユスフザイ氏のメッセージを通じて、男女平等や自他の敬愛の精神を養う。(第3号)</p> <p>マララ・ユスフザイ氏のテロに屈しない生き方やパキスタンの現状から、国際社会の平和の大切さを学ぶ。(第5号)</p> <p>⑧インスタント・ラーメンを発明した安藤百福氏から、創造性やチャレンジ精神を学ぶ。(第2号)</p> <p>⑨少年の目を通して描かれる忠犬ハチ公の生と死を通して、動物愛護の精神や生命を尊重する態度を養う。(第4号)</p>	<p>①24 頁 1 行目～10 行目</p> <p>②42 頁 1 行目～44頁11行目</p> <p>③50 頁 1 行目～52頁9行目</p> <p>④66 頁 1 行目～68頁10行目</p> <p>⑤76 頁 1 行目～78 頁 10 行目</p> <p>⑥84 頁 1 行目～86頁11行目</p> <p>⑦96 頁 1 行目～100頁12行目</p> <p>⑧106 頁 1 行目～110頁12行目</p> <p>⑨118 頁 1 行目～124頁8行目</p>
<p>Challenge</p> <p>①T-shirts for Our Class!</p> <p>②Make Your Own Crossword Puzzle!</p>	<p>①好きな英語のフレーズを入れたクラスTシャツを作成する活動により、創造性や個人の価値観を尊重する態度を養う。(第2号)</p> <p>②クロスワードパズルを自作する活動により、語彙に対する関心や自主的に創作活動を行う姿勢を養う。(第2号)</p>	<p>①38～39 頁</p> <p>②72～73 頁</p>

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

##### I. 教科書の特色

##### A. 授業が進めやすく、学習しやすい見開き構成

左ページに本文、右ページに本文に関する活動を配しました。学習内容が一目でわかる構成で、学習意欲を喚起し、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させるのに役立ちます。

## B. 何度も本文に戻って繰り返し学習

右ページの本文に関する活動に取り組むことで、自然に**繰り返し本文に触れ**、理解を深めます。本文理解を通じて、豊かな人間性や創造性を養います。

## C. 学習者が身近に感じ、自信をもてる題材

**学習者の目線**で、「自分もやればできる」と**自信をもてる**ような題材を揃えることで、学習者の個性の確立や、社会についての広く深い理解や、社会の発展に寄与する態度の育成を助長します。

## II. 各課の構成

### 1. 導入ページ

- **Your Goal!** : 内容・文法・表現の観点で**その課の学習目標**を示しています。

<b>Your Goal!</b>	内容 和食の特徴を理解しよう。
	文法 can, may, mustを使って文を作ろう。
	表現 「～ませんか」と人を誘おう。

- **Warming Up** : 本文中の語とその関連語の**ピクチャー・ディクショナリー**で、無理なく**語彙力の強化**が図れます。

**Warming Up** 📷 写真で意味を確認して、単語を発音しよう。

Food 食べ物

 A fish [fiʃ  fishes]	 B vegetables [ˈvedʒ(ə)tbəlz  ヴェヂタブルズ]	 C bread [brɛd  ブレッド]
 D fruit [fru:t  フルーツ]	 E meat [mi:t  ミート]	 F noodles [ˈnu:dlz  ノードルズ]

- 次の食べ物は英語で何と怎么说でしょう。

① 豚肉    ② ニンジン    ③ イチゴ

▶ ほかにも知っている食べ物の名前を英語で言ってみましょう。

- **Let's Chant!** : 楽しみながら英語らしいリズムと発音を学べます。**その課で学ぶ文法事項**を含んだ英文で、音声活動をしながら文法の導入も可能です。

**発音のヒント**: 正しい発音の具体的な手順を**イメージし易いイラスト**と**説明**で示し、積極的に発音練習に取り組めるよう工夫しました。

**発音のヒント**

**fとvの音**

<b>f</b>				
	① 下くちびるを上 の歯に軽く押し当てる	② くちびると歯がす れているような感 じで息を出す	③ 息を出すときはお 腹から	同じ口の形で「ヴー」と音 を出す(唇が震える)

## 2. 本文ページ

- 左ページ：本文
- 右ページ：本文理解に必要な活動を提示，学習者に安心感を与えます。

**New Words**：新語の意味を確認。

**Points to Check**：代名詞の指すものや注意すべき語句の意味などを確認。

**Comprehension**：内容把握問題。表やイラストも取り入れ，取り組みやすくしています。

**What Do You Think? / How About You? :**

本文内容に関連した自己表現活動。ヒントの選択肢があるので，抵抗なく取り組みます。  
本文をより深く考える質問は日本語で提示し，学習者の負担を減らしています。

### What Do You Think?

① Do you like *washoku*? → Yes, I do. / No, I don't.

② What is your favorite food?

→ My favorite food is \_\_\_\_\_ .

[ curry and rice / hamburger / sushi / ramen, etc. ]

☑ 本文1.7 Japanese people eat *washoku* at many special events.につき，ほかにもどのような例がありますか。

## 3. 課末ページ

- **Grammar**：文法解説＋演習問題。解説では図やイラストを多用して，イメージとしてとらえられるよう工夫しました。

① **can [cannot / can't]** + **動詞の原形** 「～できる [できない]」



The baby can walk.



John cannot [can't] walk.

- **Useful Expression**：日常で使える重要表現をペアワークで学びます。ヒントの選択肢つきで，自発的な英語活動を促します。



### Useful Expression

人を誘う

A: It's already 1) **twelve o'clock**.

B: I'm a little hungry.

A: Me too.

B: Then, **why don't we** have 2) **lunch**?

A: **That sounds good**.

B: Let's go to the cafe.



Why don't we ~? は、「(いっしょに) ~ませんか」と相手に誘う表現です。  
相手の誘いに応じるときは，That sounds good. 「それはいいですね」などの表現を用います。

▶ 上の対話を参考に，ヘアになって  部分を変え，相手を誘ってみよう。

**Hints!** 1) noon / three o'clock / seven  
2) some sandwiches / some sweets / dinner

- **Listening**：本文内容に関連した対話形式のリスニング問題。
- **Words to Remember**：その課で学習する文法事項を含む，著名人の名言。

### Ⅲ. その他

1. 題材の形式は、**アンケートの回答**(Lesson 1)、**メール文**(Lesson 3)、**対話**(Lesson 4)、**プレゼンテーション**(Lesson 8)など、**バラエティに富んだもの**としました。
2. 巻頭の**Get Ready!**では、高校の英語学習の準備として、**中学で学習した文法事項の基礎**(be動詞、**一般動詞**、**否定文**、**疑問文**)を確認できます。
3. コラム(**Activity**)では、**4技能を有機的に用いる活動**を用意し、かつ**学習者にわかり易い評価基準**を提示することで、**実践的コミュニケーション能力**を高められるように配慮しました。
4. 巻末**Word List**では、本書で扱った語の**品詞**や**名詞の可算・不可算**、**動詞の活用**、**形容詞の比較変化**などを載せることで利便性を高めることに加え、**語彙への関心**を高めるよう配慮しました。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-144	高等学校	外国語	コミュニケーション英語 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	コ I ・ 344	Revised COMET English Communication I		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### I. 全般的な留意点

- A. 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるため、題材はバラエティに富んだ、生徒に身近なものを選定した。
- B. 各課導入の Let' s Chant! やコラムの Activity を設けることで、生徒が積極的に音読したり対話したりできるように留意した。
- C. 各課導入の Warming Up (ピクチャー・ディクショナリー) や巻末の詳しい Word List により、コミュニケーションに必要な語彙力を養成するよう工夫した。
- D. 情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えることができるよう、各課 Comprehension では多様な形式で本文の内容把握ができるよう工夫した。また、本文各パートに What Do You Think? などの活動を取り入れ、内容の理解に留まらず、自己表現活動につながるような構成とした。

### II. 教科書の構成

#### A. 本課・導入ページ

1. Your Goal! : 内容・文法・表現の観点でその課の学習目標を示す。
2. Warming Up : 本文中の語とその関連語彙のピクチャー・ディクショナリー。
3. Let' s Chant! + 発音のヒント : リズムに乗り、短い文を読む活動 + 具体的な発音指導。

#### B. 本課・本文ページ

1. 左ページ : 本文
2. 右ページ : 本文理解に必要な活動
  - ① New Words : 新語の意味を確認。意味を選ぶ形式で、学習者の負担を減らしている。
  - ② Points to Check : 代名詞の指すものや注意すべき語句の意味などを確認。
  - ③ Comprehension : 本文内容の把握問題。
  - ④ What Do You Think? など : 本文内容に関連した自己表現活動。

#### C. 本課・課末ページ

1. Grammar : 左ページに解説を、右ページに演習問題を配置。解説は適宜図やイラストを用いてイメージとしてとらえやすくした。演習問題は取り組みやすいドリル形式で、本文中の単語も用いて、自然と復習ができるようにした。
2. Useful Expression : 日常で使える重要表現を学べるペアワークの活動。
3. Listening : 本文内容に関連した対話形式のリスニング問題。
4. Words to Remember : 心に響く著名人の名言。暗唱で文法が復習できる。

## D. その他の構成要素

1. **Introduction** : アルファベット／Classroom English／和製英語
2. **Get Ready!** : 高校英語学習の導入として、**中学で学習した文法の基礎**を再確認。
3. **Reading** : 2つの読み物。楽しみながら読める**英語のなぞなぞ**と、心温まる**ハチ公の物語**。
4. **Activity** : さまざまな場面設定で 4 技能を用いる活動。**シンプルな評価基準**を設け、学習意欲を高めた。
5. **Challenge** : 英語を用いて楽しみながら取り組める 2つの創作的活動。

## 2. 対照表

(例)

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
Introduction	<b>内容</b> (2)-ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。	Introduction 2 Classroom English (8～9 頁)	1
Get Ready!	<b>内容の取扱い</b> (1) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする。 (2) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を体験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。  〔言語の働きの例〕の取扱い c 情報を伝える ・紹介する	Get Ready! ①～④ (12～15 頁)  Get Ready! ①～③ (12～14 頁)	4
Lesson 1～10	<b>内容</b> (1)-ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 (1)-イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 (2)-ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 (2)-イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。  〔言語の使用場面の例〕の取扱い a 特有の表現がよく使われる場面	(1)-ア Listening (全課) (1)-イ Comprehension, Comprehension の補足活動 ▶ (全課) Words to Remember (全課) (2)-ア Let's Chant! (全課) (2)-イ Lesson 2 Comprehension ① (25 頁)  Lesson 6 Comprehension (67 頁)	55

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙や電子メールのやりとり</li> <li>b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での学習や活動</li> </ul> </li> <li>c 多様な手段を通じて情報などを得る場面 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本, 新聞, 雑誌などを読むこと</li> <li>・情報通信ネットワークを活用し情報を得ること</li> </ul> </li> </ul> <p><b>〔言語の働きの例〕の取扱い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a コミュニケーションを円滑にする <ul style="list-style-type: none"> <li>①相づちを打つ</li> <li>②聞き直す</li> </ul> </li> <li>b 気持ちを伝える <ul style="list-style-type: none"> <li>①褒める</li> <li>②謝る</li> <li>③感謝する</li> <li>④望む</li> <li>⑤心配する</li> </ul> </li> <li>d 考えや意図を伝える <ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成する</li> </ul> </li> <li>e 相手の行動を促す <ul style="list-style-type: none"> <li>①依頼する</li> <li>②誘う</li> <li>③助言する</li> <li>④提案する</li> </ul> </li> </ul> <p><b>文法事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 不定詞の用法</li> <li>(イ) 関係代名詞の用法</li> <li>(エ) 助動詞の用法</li> <li>(カ) 動詞の時制など <ul style="list-style-type: none"> <li>①現在形, 過去形</li> <li>②現在進行形, 過去進行形</li> <li>③現在完了形</li> </ul> </li> </ul>	<p>Lesson 3 本文(34 頁)</p> <p>b Lesson 1 本文(18 頁) Lesson 6 本文(68 頁)</p> <p>c Lesson 4 本文(42~44頁) Lesson 7 What Do You Think? 日本語質問(79 頁)</p> <p>a ①54 頁 Useful Expression ②20 頁 Useful Expression</p> <p>b ①102 頁 Useful Expression ②80 頁 Useful Expression ③70 頁 Useful Expression ④112 頁 Useful Expression ⑤88 頁 Useful Expression</p> <p>d 26 頁 Useful Expression</p> <p>e ①54 頁 Useful Expression ②26 頁 Useful Expression ③36 頁 Useful Expression ④86 頁 10 行目</p> <p>(ア)46 頁 Grammar (イ)112 頁 Grammar (エ)26 頁 Grammar (カ) ①20 頁 Grammar ②36 頁 Grammar ③70 頁 Grammar</p>	
Reading	<p><b>内容</b></p> <p>(1)-イ 説明や物語などを読んで, 情報や考えなどを理解したり, 概要や要点をとらえたりする。また, 聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>(1)-エ 聞いたたり読んだりしたこと, 学んだことや経験したことに基づき, 情報や考えなどについて, 簡潔に書く。</p> <p><b>〔言語の使用場面の例〕の取扱い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 特有の表現がよく使われる場面 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙や電子メールのやりとり</li> </ul> </li> </ul> <p><b>〔言語の働きの例〕の取扱い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>d 考えや意図を伝える <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮定する</li> </ul> </li> </ul> <p><b>文法事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ウ) 関係副詞の用法</li> <li>(オ) 代名詞のうち, it が名詞用法の句及び節を指すもの</li> <li>(キ) 仮定法</li> </ul>	<p>(1)-イ Reading 2 Comprehension (125 頁)</p> <p>(1)-エ Reading 2 Let's Do It! (125 頁)</p> <p>Reading 2 Let's Do It! (125 頁)</p> <p>Reading 2 120 頁 6 行目</p> <p>(ウ) Reading 2 124 頁 7 行目 (オ) Reading 1 60 頁 1 行目 Reading 2 122 頁 12 行目</p>	6



	(ク) 分詞構文	(キ) Reading2 120頁 6行目 (ク) Reading2 119頁10行目	
文法のまとめ	<b>内容の取扱い</b> (2) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。  <b>文法事項</b> (ア) 不定詞の用法 (イ) 関係代名詞の用法 (ウ) 関係副詞の用法 (エ) 助動詞の用法 (オ) 代名詞のうち、it が名詞用法の句及び節を指すもの (カ) 動詞の時制など ①現在形・過去形 ②現在進行形・過去進行形 ③現在完了形 ④助動詞などを用いた未来表現	Let's Talk! (56, 57, 90, 91, 114, 115 頁)  (ア)56～57 頁 (イ)(ウ)114～115 頁 (エ)29 頁 (オ)56 頁 (カ)①28 頁 ②56 頁 ③90 頁 ④29 頁	8
Activity	<b>内容</b> (1)-ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 (1)-エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (2)-ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。 (2)-イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。 (2)-ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。  <b>〔言語の使用場面の例〕の取扱い</b> a 特有の表現がよく使われる場面 ・買物  <b>〔言語の働きの例〕の取扱い</b> c 情報を伝える ①説明する ②描写する ③理由を述べる	(1)-ア Activity 3 (92～93 頁) (1)-エ Activity 4 (116～117 頁) (2)-ア Activity 1 (30～31 頁) Activity 2 (58～59 頁) (2)-イ Activity 4 (116～117 頁) (2)-ウ Activity 2 (58～59 頁) Activity 4 (116～117 頁)  Activity 3 (92～93 頁)  ①～③ 58～59 頁 Activity 2 116～117 頁 Activity 4	7
Challenge	<b>内容</b> (1)-ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。	Challenge 1 (38～39 頁)	3

	<p>(1)-エ 聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，簡潔に書く。</p> <p>〔言語の使用場面の例〕の取扱い</p> <p>b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面 ・学校での学習や活動</p> <p>c 多様な手段を通じて情報などを得る場面 ①本，新聞，雑誌などを読むこと ②情報通信ネットワークを活用し情報を得ること</p>	<p>b Challenge 1 (38～39 頁)</p> <p>c ①②Challenge 1 (38 頁) ①Challenge 2 (72～73 頁)</p>	
	計	84	